

伯友

No.76 2020

・HAKUYUKAI・HAKUYUKAI・HAKUYUKAI

会 長 挨 拶

・HAKUYUKAI・HAKUYUKAI・HAKUYUKAI



伯友会会長
24期 石光 一 郎

去る2月8日(土)77期生167名が母校を巣立ちました。私は2014年4月、77期生入学と同時に会長を拝命し、2期6年その任に当たり、この度77期生と共に卒業ということになりました。

振り返れば、2013年の春、母校創立75周年の新校舎完成祝いの頃、次期会長にとのお話をいただき、大いに逡巡し、一旦はお断りしたことを思い出します。

六甲のために役に立ちたいという思いは強く持ちながら、引込み思案に加え、妻が療養のため入院しており、退院の目途も立たず、大きな不安にさいなまれていたのだと思います。悩んだ末に結局お受けし、就任に際して、次のように書きました。

「ちょうど読んでいた『漢語四方山話』の中で、<余熱>という言葉に出会いました。中国語の<余熱>はもともと残暑を意味し、その第二義に、1980年代後半からの

用法で「最盛期を過ぎ、現役を退いた老人の、まだ尽きずに残っている熱気」とあります。私が最終的に会長をお引き受けしたのは、そんな心の中の<余熱>のなせるわざかもしれません。」

この度の退任を前にして、療養中の妻のために買求めた、瀬戸内寂聴さんの随筆集『寂聴茶話<あきらめない人生>』の中で、やはり中国語の「老青春(ラオチンチュン)=老後をはつらつと生きる」という言葉に出合ったのも、何かの巡り合わせかもしれません。まさに、この6年間は、伯友会のさまざまな活動を通して、古稀に至る道のりを、はつらつと歩くための力をいただいた、貴重な時間であったと言えます。

2008年に六甲学院を退職していたにもかかわらず、1期の大先輩から現中1・82期生まで、再び多くの同窓生との親密な時間を共有する機会を与えられたことは、この上ない幸せでした。

この間母校では、2015年に松浦校長(27期)から古泉校長(30期)へとバトンが渡り、校長以外に武宮初代校長を直接知る教職員もいなくなり、2016年3月をもって、学校法人六甲学院は発展的解散。イエズス会学校の運営は学校法人上智学院に一本化され、母校の校名も「六甲学院中学校・高等学校」に変わり、校章も新たに制定されました。

これを機に、学校としての視野が広がったこと、姉妹校4校の連携がさらに強まって、関東では上智大学を会場に、4校同窓会合同のイベントが開催されるまでになったことは、大いに評価すべきだと考えています。

「六甲伯友会」としても、2015年には、学校法人六甲学院最後の赤松理事長(27期)の要請を受け、会員の皆様の絶大な賛同のもと、「伯友奨学基金」を設立。在校生を、経済的にも援助できるまでに成長できたことは、大きな喜びです。また、2018年には母校を会場に、「六甲伯友会」設立75周年を、多くの会員と共に慶び祝い、新たな時代の幕開けを迎えました。

2014年度総会に於ける、五百旗頭前会長の退任のご挨拶の中の、「六甲のために働けと言われて、“No”という答はない」という言葉を胸に、この6年間を過ごしてきました。伯友会活動の実務に於いてお役に立てたのか、はなはだ心もとない思いでおりますが、半世紀以上前に六甲

(P.2へ続く)

2020年度六甲伯友会総会招集告知

右の要領で2020年度六甲伯友会総会の開催を予定しています。

しかしながら現在、新型コロナウイルス感染症による影響が予断を許さない状況になっています。2020年度総会・懇親会につきましては、現時点では開催予定ですが、事態の今後の推移により、総会の延期・懇親会の中止も考えられます。中止の場合は、4月初旬に伯友会ホームページ上に掲載するとともに、参加申込者にご連絡いたします。

六甲伯友会 会長 石光一郎

開催日 2020年4月25日(土曜日)

開 会 午後3時(受付は午後2時半から)

場 所 神戸ポートピアホテル

主な議題 ・2019年度事業報告
・2019年度決算報告
・2020年度事業計画
・2020年度予算
・その他

卒業時に授与された「6ヶ年皆勤賞」のことを思いながら、幹事会には一度も休むことなく出席し、様々な検討課題に取り組むことはできました。支えてくださった事務局のお二人を始め、母校愛に溢れる幹事や会員の皆様へ、心から感謝申し上げます。

委員会だより

■会員委員会

2020年11月目標で、次回の名簿発行に向けて進めております。今回からは伯友会会員で会費納入者の方のうち、名簿を希望される方に有償で販売するという事に致しました。

今回の名簿作成は、株式会社サルトに名簿発行業務を委託しております。既に、株式会社サルトから、情報確認のための確認ハガキが届いているかと思いますが、皆様の最新情報のアップデートのために、是非ご返答お願い致します。

確認ハガキの返信、もしくはインターネット（ハガキに記載のあるサイト、もしくは伯友会のホームページ）でご返信お願い致します。情報に変更の無い方も、ご返信よろしくお願い致します。

掲載項目は氏名・住所・電話番号・勤務先・在校時クラブ・メールアドレスですが、住所・勤務先・在校時クラブについては、不掲載を希望頂くと掲載致しません。

電話番号・メールアドレスについては、掲載を希望頂くと掲載致します。

また、販売等で会費納入者にお渡しできる名簿ですが、会員お一方1冊とさせていただきます。広告や賛助金をお申し込み頂いた方には、名簿1冊お渡し致しますが、追加で名簿を購入頂くことはできません。（2冊以上お渡しできないため）振込用紙に賛助金と名簿共に入金されると2冊発送と書かれておりましたが、発送は1冊のみです。既に広告や賛助金をお申し込み頂いた方、名簿を申し込み・ご入金頂いた方には、ご連絡をさせて頂き、確認・ご返金の手続きをさせて頂きます。詳細がわかりにくく、申し訳ございません。

名簿のご購入、広告・賛助金のお申し込み、是非ご検討頂ければと思います。

なお、この会報誌は、現在発行の準備を進めている名簿データの整理と並行して行う発送であるため、事務局に住所変更のご連絡をいただいても、反映できていない場合がございます。ご了承下さい。

■情報管理委員会

①事務局のパソコン管理

Windows7パソコンの買い替え、パソコン修理の手配、事務局からの問い合わせ対応を実施しました。

②東京支部とのビデオ会議

2019年度に開催されたの幹事会、常任幹事会で、東京支部とビデオ会議を実施しました。神戸と東京の情報共有が進んだと評価されました。

■広報委員会

●「伯友」秋号の継続送付希望者募集

六甲伯友会は、財政の健全化の一策として支出を減らすことを目

私の退任を機に、伯友会役員は一気に若返ることになり、さらに活発な活動が期待されますが、それには会員の皆様のご理解とご支援が欠かせません。今後も今まで以上のご支援をお願いし、皆様の益々のご健勝をお祈りしながら、私の退任の挨拶とさせていただきます。

的に、希望者だけに会誌「伯友」を送り、印刷費および郵送費の削減を計っています。

前回（2018年発行第72号）は送付を希望しない方を募りましたが、応募が少なく、その効果は微々たるものでした。

そこで今回は、送付を希望される方にご返答をいただき、ご返答がなかった方には送付しない方針で経費の節減を図ります。

ご面倒ですが、引き続き送付を希望される方は下記の方法でお申し出くださいますようお願いいたします。

①伯友会 HP (www.hakuyu.jp) ②メール (office@hakuyu.jp)

③FAX (078-861-6573) ④会報誌75号(2019年度秋号)に

同封のはがき

お申し出がない方には、第77号(2020年秋発行予定)から会誌「伯友」をお送りしませんのでご注意ください。

なお、後刻再度送付をご希望される場合は、お申し出いただければ送付を再開いたします。

※会誌「伯友」は2018年度よりPDF版を伯友会HP

(<https://www.hakuyu.jp>)で配信しています。

2018年度の「伯友」は、春号(全会員に送付)9,900部、秋号6,200部を印刷し、制作、印刷、封入、発送費の合計が248万円で、この金額は伯友会の財政支出の1/3を占めています。特に郵送費は今後も益々増加傾向にあり財政圧迫の主要因になりつつあります。これらの事情をご理解の上、宜しくご協力の程お願いいたします。

なお、春号は今後も全会員に送付いたします。

●伯友会オフィシャルサイトに無料クラシファイド広告コーナーを計画中！

伯友会オフィシャルサイトでお仕事、ボランティア活動などの告知をしてみませんか！お仕事を始め、多様な活動をPRしたい方々と、六甲の繋がりを活用したい方々をサイトを通して繋ぐことが出来ればと考えています。まずは試験運用から始めたいと思っています。

掲載内容は、期、名前、会社名(団体名)、職業、専門分野、URL等連絡方法を予定。会社(自営業、会社経営、会社員等)、医院(勤務医、開業医等)、士業(弁護士、司法書士、会計士、税理士等)、飲食店、学習塾、ライター、ミュージシャン、ボランティア活動など、特に明確な制限は設けていませんが、掲載をお断りする場合がございますのでご了承ください。

※掲載費用は頂きませんが、メリットを感じられた際は寄附をお願いします。また、伯友会サイトの「いいね」を押したり、総会・懇親会に出来る限り参加するなど、伯友会活動にご協力いただければ幸いです。

お申し込みは伯友会オフィシャルサイト(<https://www.hakuyu.jp/>)内「お問い合わせ」コーナー「クラシファイド広告用」をご利用ください。

OB講演会の報告

社会で活躍されておられるOBの方々に2013年度から講演をお願いしています。第13回目となる今回は、2019年10月25日(金)に6校時に高校2年生を対象に合併教室で行いました。



51期 中口俊哉氏

今回は51期の中口俊哉氏に「拡張現実技術の医療応用研究の紹介と学位取得のすすめ」という題で講演をしていただきました。中口氏は上智大学理工学部卒業後、同大学院後期課程を修了し博士(工学)を取得、その後千葉大学工学部で研究者となり、現在は千葉大学フロンティア工学センター教授として活躍されています。

中学1年生当時の集合写真で、古泉校長(佐久間先生)や山田ルイ53世と一緒に写真を見せて生徒の心をつかむと、ご自身の六甲での話、上智大学に進学することになった経緯及び上智大学についての話、博士の取得やその後大学教授になるまでにお話は及びました。もともと「理系」が好きで、その後その好きな「理系」の仕事に携わることができた喜びについても話されました。博士の取得と最近の就職事情については、理系だけでなく文系にもまたがる内容でした。千葉大学工学部総合工学科医工学コースについてもご紹介いただきました。

「AI医師を信頼しますか」との質問に対し、世界の半分近くの人々が「信頼する」と言っているとの例をあげて、今後の医療分野におけるAI技術の重要性についてもお話いただきました。ポケモンGOなどのゲームにも使われている画像処理、バーチャルリアリティー、拡張現実感(AR)の技術をどのように医療に応用していくかといったことを専門にしておられ、外科手術や内視鏡の手術の時にMRI等の画像を体に映し出すことにより、より正確な手術をすることができるという事例を画像とともに説明していただきました。画像処理やプロジェクターの技術といった工学の分野の研究が、医療技術の将来を支えているとのことでした。

(六甲学院中学校・高等学校 事務室 林 豊 34期)



伯 医 会

か ら の

緊 急 提 言

世界中を震撼させている新型コロナウイルス、ついにパンデミック宣言がなされ、今夏のオリンピック開催が危ぶまれるほどの事態となっています。

今や人々の関心は、いったいいつピークを迎え、収束するのかということでしょう。

この感染症の初期症状は通常風邪と区別できませんし、しかも若い人や健康な人の多くは不顕性感染です。つまり実際には遥かに多くの人々がすでに罹患している可能性があり、真の死亡率はインフルエンザと比べてもそれほど高くなさそうです。

ただ何よりも人々を言いようのない不安に陥れている元凶は、インフルエンザと異なり治療法が未だにないということでしょう。

ワクチンの完成には数か月から1年、抗ウイルス薬の完成にはもっと時間を要するでしょうし、亜熱帯地域でも蔓延していることを考えると、夏までに収束するどころか年末あるいは来年初頭まで持ち越すのではないかと悲観論もあながち間違いではないでしょう。

いずれはかつての2009年新型インフルエンザのように、毎年流行する普通の感染症となり、ワクチンと薬で対処していくということになるのかもしれませんが。

日常生活をしている以上、ウイルスを完全に避けることには限界があるかもしれませんが、通常風邪と同様に何よりも個人の免疫力が決め手ですので、手洗い等はもちろんですが、規則正しい生活や十分な栄養、睡眠、体力の維持増強などで、過剰に恐れず対処していくしかないと思います。

1日でも早く感染が収束し、誰もが安心して暮らせる日々に戻りますように。

(伯医会会長・おおか循環器科クリニック院長・
34期 大加戸彰彦)

* 3月15日に書かれた原稿です。

会員の皆様へ

■会誌「伯友」秋号の発送について

「伯友」秋号は、これまで、会費納入者にのみ送付しておりましたが、第72号において送付不要という方の調査を行い、ご回答のあった会員には翌年から秋号をお送りしていません。この間、会員へのサービス向上のため、六甲伯友会ホームページの充実を図り、会誌掲載の記事をはじめ、リアルタイムな情報も掲載するようになっています。

このたび、これらを踏まえ、経費削減の目的も鑑みまして、改めて今後秋号の送付を希望する会員を再調査させていただき、第77号からは、その方々に限って会誌をお送りする運びとなりました。

今まで会誌「伯友」をご愛読くださっている会員のみなさまにはこれからもお送りいたしますので、お忘れなきよう是非お申し出ください。

詳しくは広報委員会の記事（本誌中面）をご参照のうえ、お手数ですがご回答ください。

■会費納入のお願い

会員には会費の納入義務があります。会費は伯友会にとって重要な収入であり、伯友会運営にとって貴重な財源です。未納の方は是非とも納入して下さい。

宛名ラベルの見方：

| | | |
|-------------------------|------------|------------|
| 〒 657 - 0068 | | |
| 兵庫県神戸市灘区篠原北町 1 - 8 - 25 | | |
| 伯友 太郎 様 | | |
| (〇〇-〇〇-〇〇) | | |
| 期 | 学年での 番号 | 会費納入 状況 |

あなたの会費が何年度分まで納められているかは、宛名ラベルに記載されています。もしあなたが終身会員であれば、会費納入状況は『終身』になっています。2020年度分まで納入済みの方は『2020』となっています。また、会費納入実績がない場合は記載がありません。

年会費：伯友会年会費は3,000円です。会費未納期間が3年以上ある場合は、2年前に遡り本年度分を含めて3年分納入いただきます。

終身会費：終身会費は45,000円です。既に半数の会員が終身会員になっています。終身会員になると年会費の納入の必要がなく、毎年会費を納入する煩わしさもなくなります。また、過去の未払いの年会費を遡って徴収することはありませんので、終身会員になられることをお勧めしています。なお、今年度以降の会費を納入済みの方にはその分を45,000円から差し引かせていただきますのでお問い合わせ下さい。

■伯友基金について

伯友基金は六甲学院の教育活動と社会奉仕活動のために使用する目的で平成5年に設立された基金です。第3運動場のナイター照明もこの基金を利用して設置されました。また、基金の一部から東ティモール聖イグナチオ学院奨学金プログラムへの協力もしております。伯友基金の理念にご賛同頂ける方は、下記口座をご利用下さい。

■伯友奨学基金にご協力を！

六甲学院からの要請を受け、「伯友奨学基金」を設立しました。昨今、学費に困窮する学生が増え、大学生の2人に1人が約300万円の負債を負って社会に出るのが日本の現状となっています。六甲学院も決して例外ではなく、奨学金を必要とする学生が年々増加しております。“家庭の経済的理由で六甲を去らねばならない後輩をひとりも出たくない”という思いで設立された奨学基金です。伯友会からの奨学金として、年間約50万円の授業料相当分を1人もしくは2人に給付していくことを目標としております。

これまでの呼びかけに応じていただいた皆様からのご寄付は、204件7,791,637円に達し、うち1,843,200円を学校の求めに応じて送金いたしました。

これからも継続的な積み立てが必要です。引き続き基金へのご協力をよろしくお願いいたします。今年度のご協力者9件395,000円でした。

伯友74号掲載以降のご協力者一覧（敬称略）

15期 田嶋紀雄、16期 北村豊、19期 箕浦輝幸、24期 加藤孝雄、26期 北村明良、46期 岩石徹、58期一同、匿名4名

伯友会会費の納入は

- 三井住友銀行六甲支店（421）
口座番号（普通）1103520 口座名 六甲伯友会
- 郵便振替
口座番号 01110 - 8 - 73016 口座名 六甲伯友会

伯友基金への振込は

- 三井住友銀行六甲支店（421）
口座番号（普通）3692900 口座名 伯友基金

伯友奨学基金への振込は

- 三井住友銀行六甲支店（421）
口座番号（普通）4513835 口座名 六甲伯友会奨学金
- ※ご入金の際には事前に期・名前を事務局までお知らせください。
※寄付者のお名前は会誌の春号に掲載されます。匿名希望のかたは併せてお知らせください。

■伯友会事務局からのお知らせ

伯友会事務局執務時間は年末年始とお盆の頃を除いて原則的に月・水・金曜日のP.M.1:00～P.M.5:00迄です。ご用件の内容によっては、即答出来ない場合もありますが、必ず調べた上お答え致しますので、ご遠慮なくご連絡下さい。

| | | |
|--------------|-----|------------|
| 伯友76号 | 発行日 | 2020年3月15日 |
| | 発行人 | 石光一郎 |
| | 編集 | 広報委員会 |
| | 印刷 | (株)学術出版印刷 |
| | 校正 | 久井千岳 |

| | |
|---------------|-----------------------------------|
| 伯友会事務局 | 〒 657-0068 |
| | 神戸市灘区篠原北町1丁目8番25号 |
| | 六甲学院生徒研修所内 |
| | TEL.078-861-6588 FAX.078-861-6573 |
| | E-mail office@hakuyu.jp |